

一庫ダムの 事前放流

一庫ダムでは、平成30年7月豪雨において異常洪水時防災操作を行ったことにより河川の増水を招いてしまったことを受け、洪水調節の機能向上となる事前放流の検討を行い、令和元年9月1日から事前放流を実施しています。

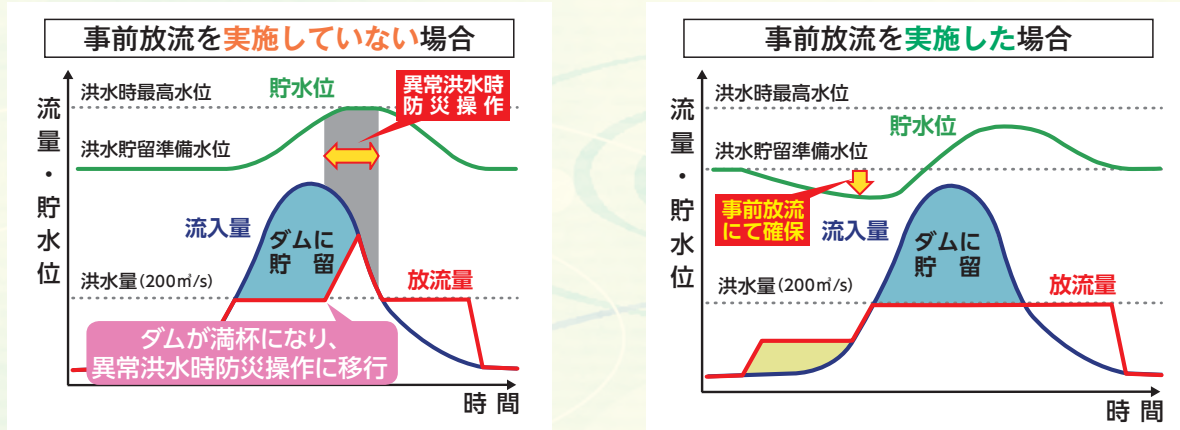
事前放流とは

ダムの能力を超える大雨が予測された場合に、ダムに貯まっている水の一部を事前に放流し、洪水を貯め込むための空き容量を一時的に増やす操作のことです。



事前放流の効果

より多くの洪水を貯め込むことができるため、ダムが満杯になるのを回避したり、満杯までの時間を遅らせることで、ダムの洪水調節機能が強化されダム下流の浸水被害の軽減を図ることができます。



※異常洪水時防災操作とは、ダムが満杯になると予測された場合、ダムに流れ込んだ量を等しくなるまで放流量を増加させる操作のこと。

一庫ダムにおける事前放流の条件

近年は台風の進路予測や降雨予測精度が向上し、数日前から大雨の可能性を予見できるようになりました。事前放流は、気象庁が発表する降雨予測をもとに判断し、洪水が予想される最大3日前から事前放流を行います。

【事前放流の実施方法】

- ・事前に放流するダム貯水量は、最大約150万m³
- ・事前放流によるダムからの放流は、最大毎秒100m³
- ・多田院地点の河川水位が4.2m(水防団待機水位)未満となるように事前放流を行います。